

卸売市場をとりまく環境変化と課題

卸売市場をとりまく近年の環境変化

- 近年の環境変化を、Policy（政策）、Economy（経済）、Society（社会）、Technology（技術）の視点で整理

Policy 政策	・ 農業競争力強化プログラム、農業競争力強化支援法 ・ 卸売市場法と食品流通構造改善促進法の改正
Economy 経済	・ 卸売市場経由率の低下、契約取引の増加、買付集荷の増加、輸出機会の拡大 ・ ドライバー不足、人手不足
Society 社会	・ 産地の高齢化と生産減少 ・ 消費者の人口動態と消費の変化
Technology 技術	・ 卸売市場における情報通信技術導入の遅れと新技術の登場 ・ サプライチェーンにおける情報の断絶問題

卸売市場をとりまく近年の環境変化 政策

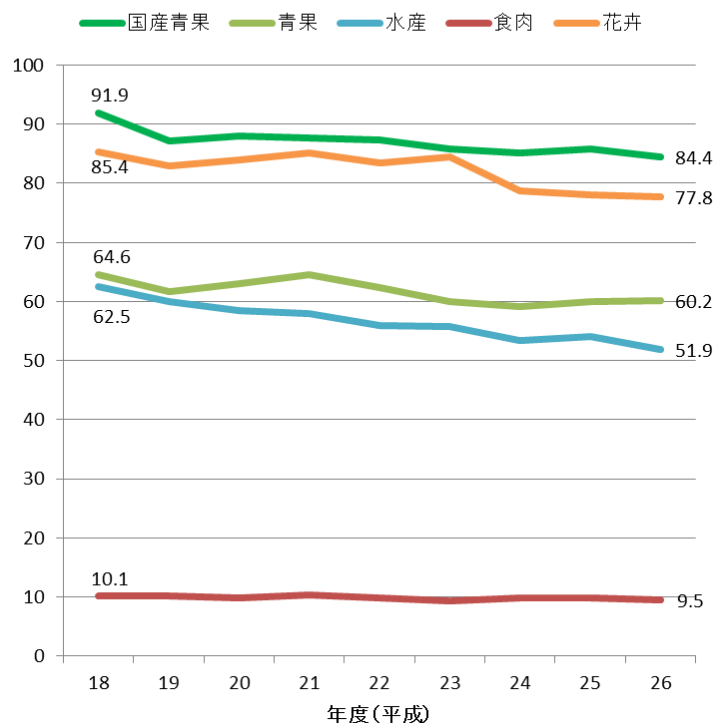
- 平成29年8月に施行された「農業競争力強化支援法」において、国が講ずべき施策として、以下が示された
 - － 農産物流通等に係る規制について、経済社会情勢の変化を踏まえた見直しを行うこと
 - － 農産物流通等について、その業務の効率化に資するため、情報通信技術その他の技術の活用を促進すること
- 平成29年12月の「農林水産業・地域の活力創造プラン」では、第三者販売や直荷引きの原則禁止、商物一致の原則等のルールについて卸売市場ごとに定められるとすることや、食品流通の合理化の方向性として、情報通信技術等の技術を積極的に導入することが示された
- 平成30年3月6日に、「農林水産業・地域の活力創造プラン」を反映した卸売市場法及び食品流通構造改善促進法の一部を改正する法律案が通常国会に提出されている

卸売市場をとりまく近年の環境変化

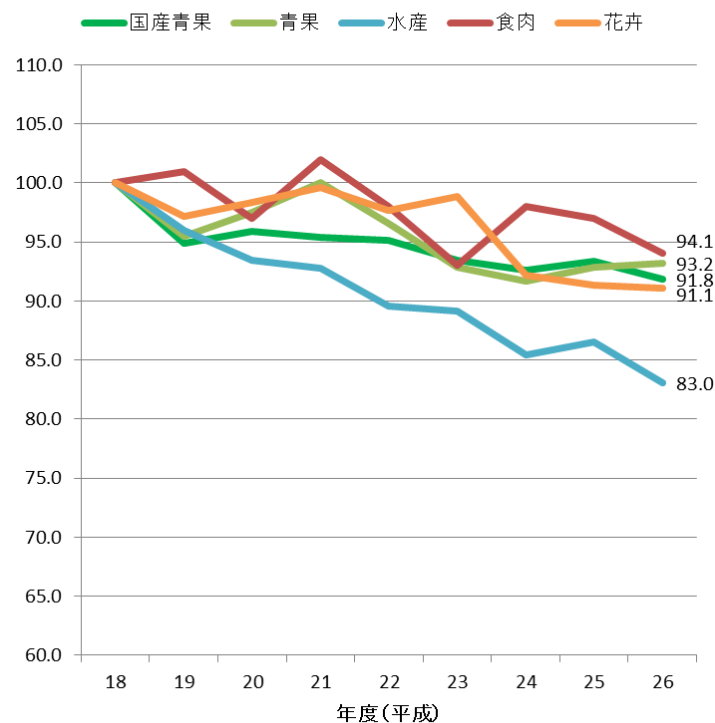
経済：卸売市場経由率の低下

- 長年にわたり、生鮮品の卸売市場経由率の低下が続いている
- 国産青果物に限れば卸売市場経由率は8割以上と高水準にあるが、それも低下傾向が続いている

卸売市場経由率
(%)



卸売市場経由率
(平成18年度の値を100とした指数)



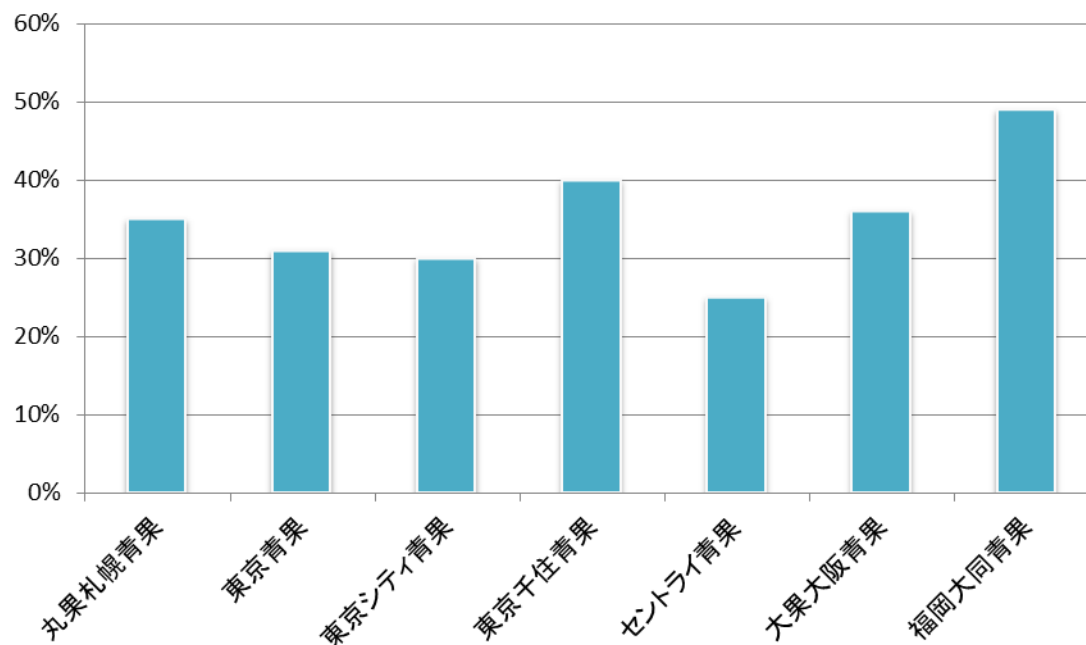
出所：農林水産省「卸売市場データ集」

卸売市場をとりまく近年の環境変化

経済：買付品の割合の高さ

- 多くの卸売会社で、買付品の割合が30～40%に上っている
 - － 産地の要請にこたえることで利益率の低い買付品の割合が上昇すると、卸売会社の利益率が低下する恐れがある

買付品の割合（2016年度、金額ベース）



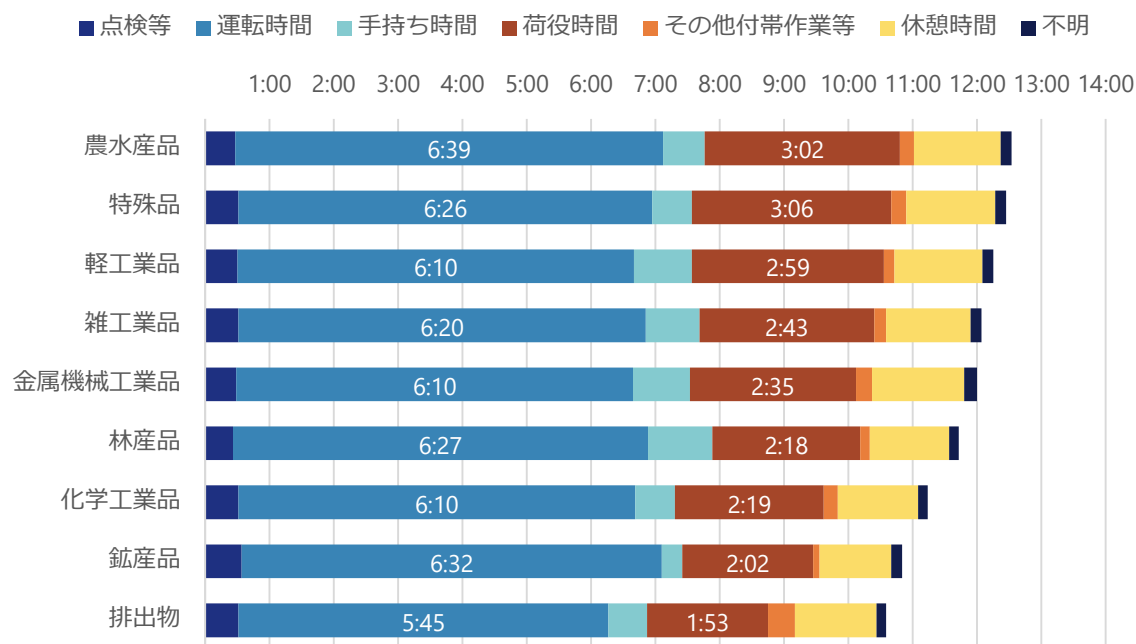
出所：『農経新聞』2017年7月24日号

卸売市場をとりまく近年の環境変化

経済：物流問題・トラックドライバーの不足

- トラックドライバーの人手不足と労働環境が問題視される中、国土交通省は平成29年11月に、標準貨物自動車運送約款を改正した
 - － 改正により、運賃（運送の対価）と料金（運送以外の役務等の対価）の区別を明確にするとされた
 - － 農水産品は他の品目に比べて荷役時間が長く、物流費が増大する可能性がある

1運行の拘束時間とその内訳



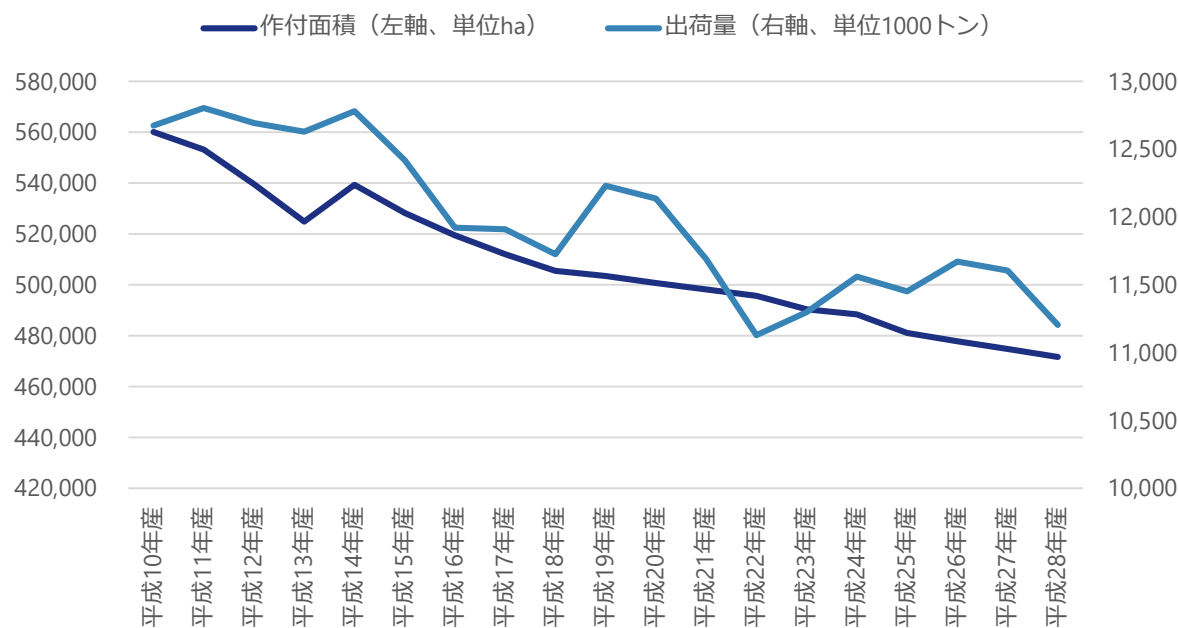
出所：国土交通省
「トラック輸送状況
の実態調査」（平成
27年）

卸売市場をとりまく近年の環境変化

社会：農業生産者の高齢化

- 長年にわたり農業者の高齢化が継続し、生産減の傾向が現れている
 - 野菜では作付面積、出荷量ともに減少傾向にある
- 今後近いうちに、重量野菜など高齢者には生産しづらい品目で出荷量が大きく落ち込む恐れがあり、収穫作業や選果作業の負担軽減が求められる

野菜の出荷量と作付面積の推移

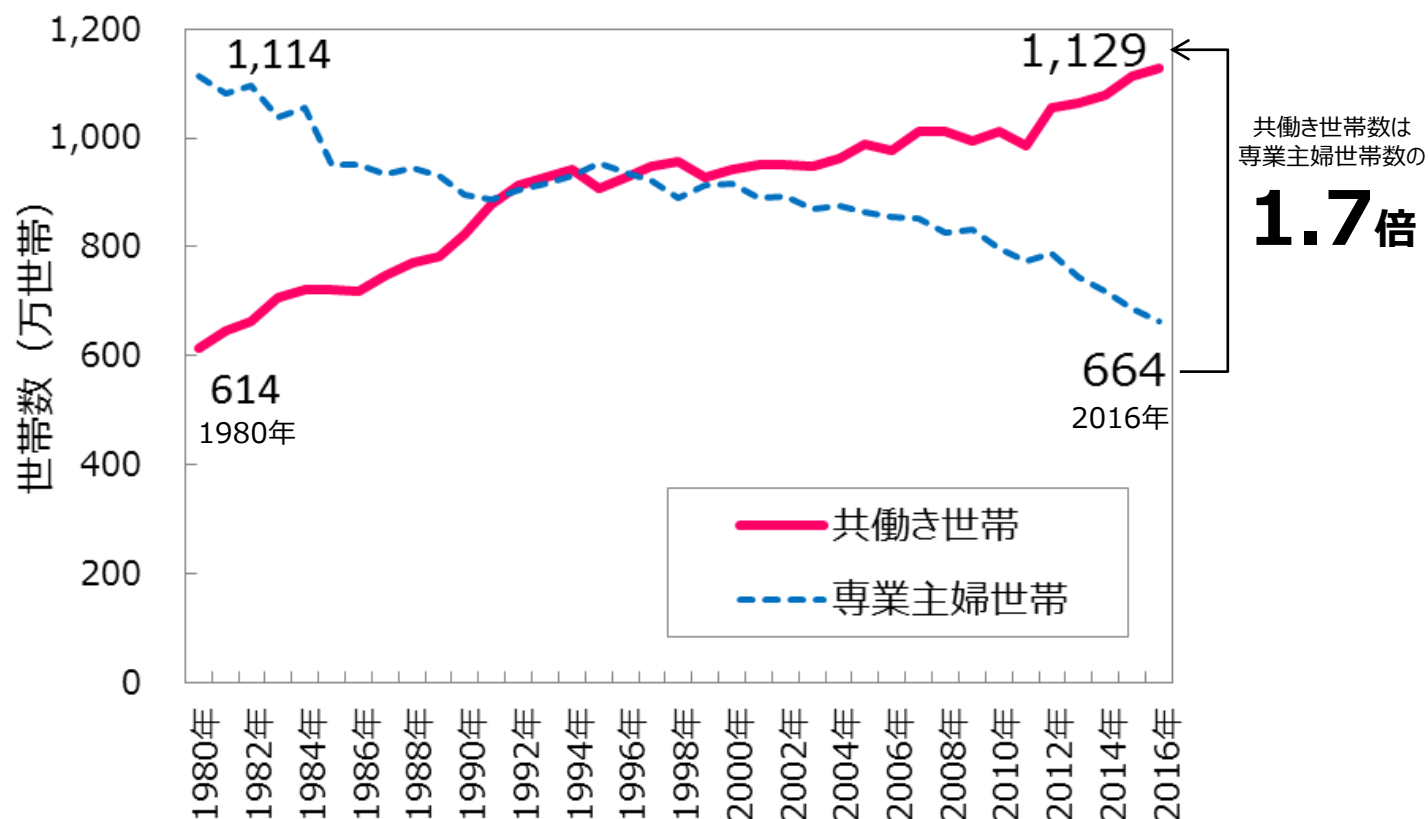


卸売市場をとりまく近年の環境変化

社会：消費者人口動態の変化

- 少子高齢化、単身世帯の増加、有職女性の増加が大きな変化である
 - 食の外部化や、カット野菜など加工品需要の増加につながると考えられる

共働き世帯数と専業主婦世帯数の推移



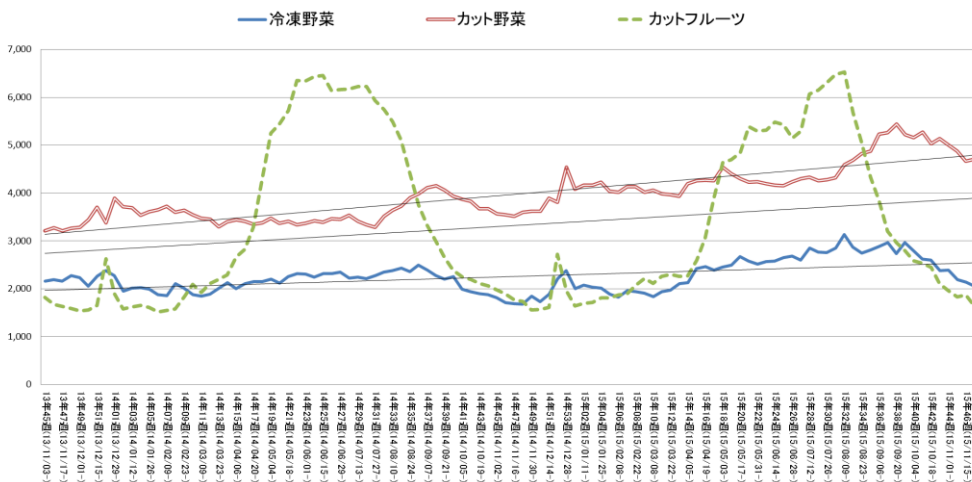
出所：内閣府「男女共同参画白書」を元に作成

©2018 公益財団法人流通経済研究所

卸売市場をとりまく近年の環境変化 社会：消費の変化

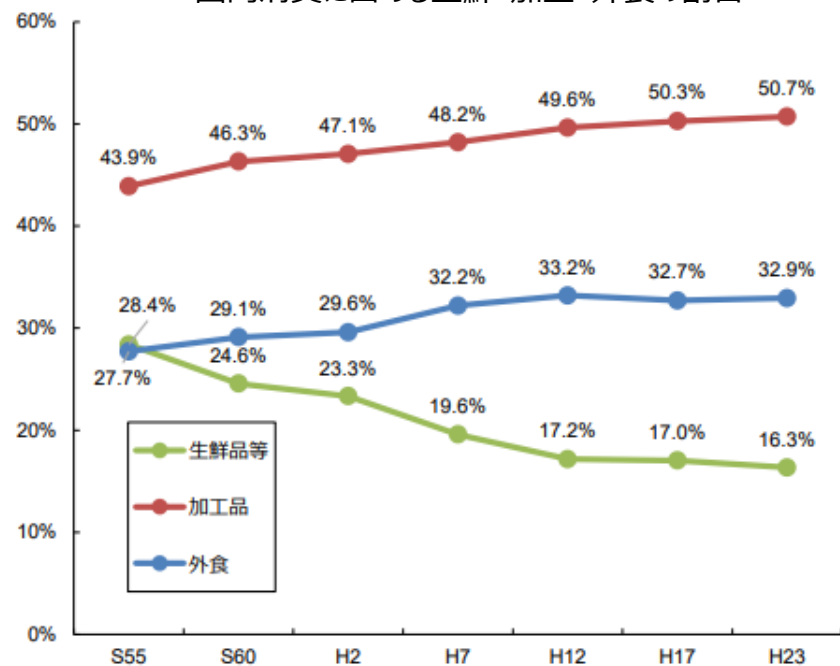
- 人口動態の変化により、食品量販店では冷凍野菜、カット野菜、カットフルーツなどの簡便青果物の売上が増加傾向
- 消費の面でも、生鮮品等の割合が低下し、加工品や外食の割合が増大し続けている

簡便青果物の長期トレンド(1000人当たり購買金額)



出所：流通経済研究所「生鮮食品流通研究セミナー」資料
データはShopper Insight 社「real shopper SM」より

国内消費に占める生鮮・加工・外食の割合



出所：農林水産省「卸売市場を含めた流通構造について」（平成29年）

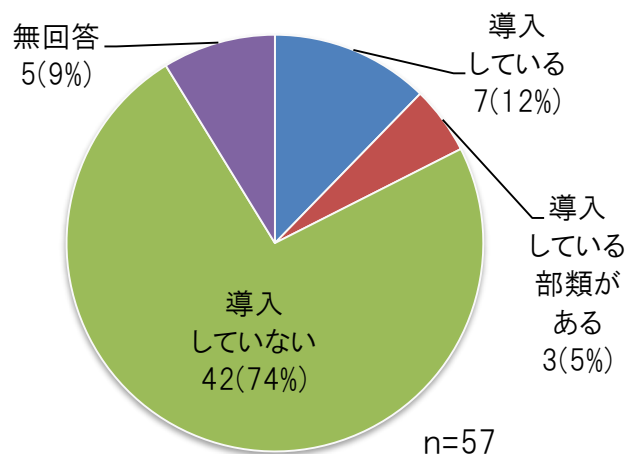
卸売市場をとりまく近年の環境変化

技術：情報通信技術導入の遅れ

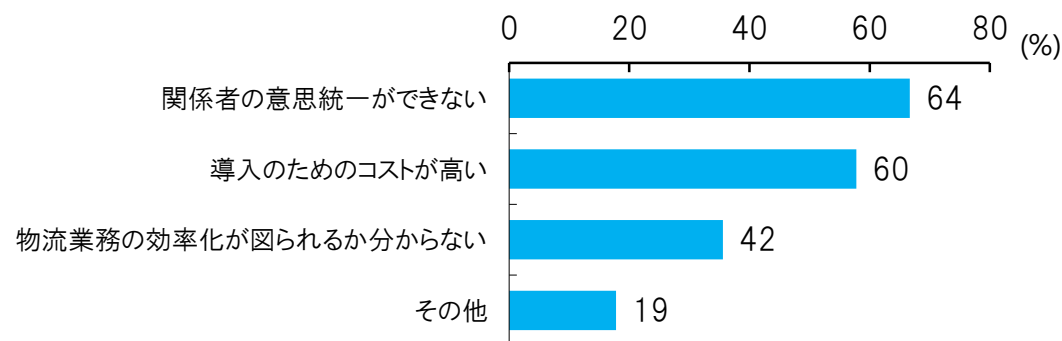
■ 卸売市場では、生鮮EDI等の情報通信技術の導入が遅れている

- 生鮮EDI標準や電子タグの導入状況に関する調査では、74%が「導入していない」と回答している
- ホームページを持っていない卸売業者や、パソコンを持っていない売買参加者などもおり、情報通信技術の導入が遅れているといえる

生鮮EDI標準や電子タグの導入状況
(H25年度、中央卸売市場（食肉を除く）)



生鮮EDI標準や電子タグが
導入されていない理由（複数回答）



（その他の主な理由）

- ・ 認知度が低く、普及が進んでいないため。
- ・ 24時間の受発注体制を作らなくてはならなくなるため。

卸売市場をとりまく近年の環境変化

技術：新しい情報通信技術の登場

- 近年、新しい情報通信技術が登場している
 - － 例えばブロックチェーン、IoT、人工知能など
- 卸売市場流通で情報化が遅れている中、これらの技術を作業負担軽減や効率化等に活用できる可能性がある

IoT



ブロックチェーン

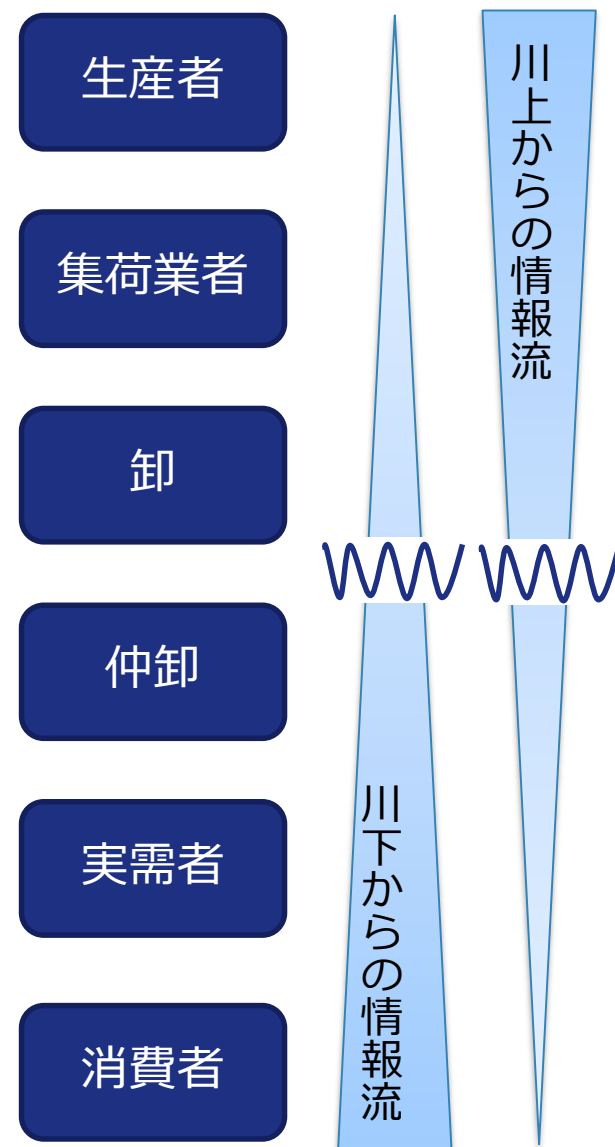
人工知能



卸売市場をとりまく近年の環境変化

技術: サプライチェーンにおける情報の断絶

- 産地・生産者がマーケティング活動を行うためには、川上と川下の間で、円滑な情報流が流れることが必要
- しかし卸売市場流通では、産地からの生産情報も、小売業からの消費者情報も、流通過程で途切れてしまう
- すると、産地は川下のことが分からないためマーケティングができない。また、実需は川上のことが分からないため仕入れが難しく、新産地・新商品の開発も困難となる



卸売市場にもとめられる課題対応

■ 業務の効率化

- 情報通信技術の導入が遅れる中、業務の効率化が求められる
- マーケティング力強化や付加価値向上等のために、情報流の整備が必要
- 加工需要の増大等から、契約取引等を推進するための情報流の強化も重要になっている

■ 集荷の困難さへの対応

- 高齢化等により生産量が減少し、集荷が難しくなっていく
- 生産回復に向けた産地への提案強化や、需要予測に基づく産地リレーの調整と分荷計画などが必要になる

■ 物流問題の改善

- 物流費上昇が危惧される中、地方市場の出荷等のために物流改善が求められる
- 市場経由率が低下する中、効率的なコールドチェーンの整備などによる競争力の強化も重要な問題

■ 制度変更への対応

- 卸売市場法や食品流通構造改善促進法改正後の環境に対応する必要がある